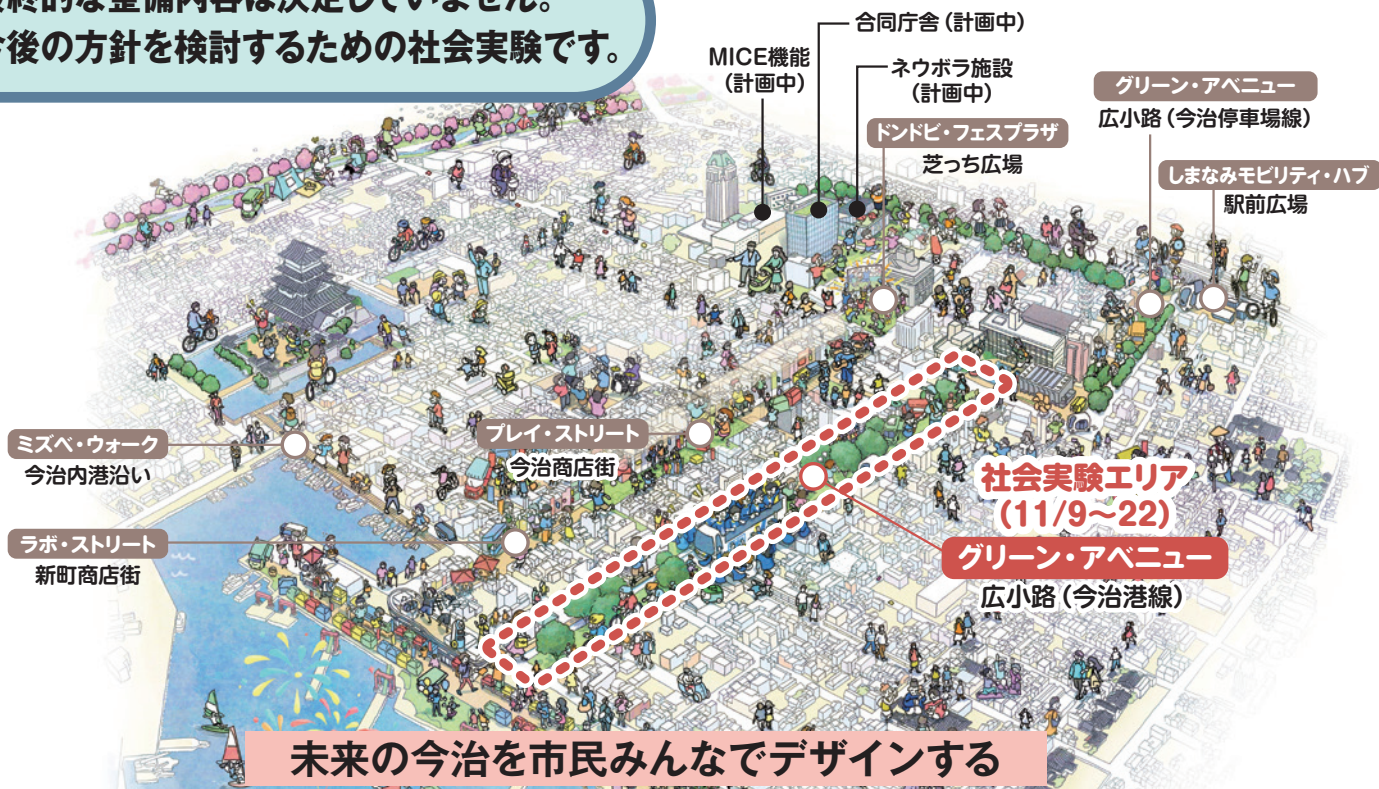


最終的な整備内容は決定していません。
今後の方針を検討するための社会実験です。

■今治市中心市街地グランドデザイン将来ビジョン(案)



未来の今治を市民みんなでデザインする

広小路社会実験

今治市中心市街地グランドデザインの実現に向けて
広小路の道路空間活用の可能性を確かめる社会実験を行います。

～道路空間活用の社会実験とは～ 実際の道路空間を一時的に変えて、新しい活用方法を試し、その効果や課題を確かめる取り組みです。実験で得られたデータと皆さんの声を踏まえ、今後の整備方針を検討していきます。

期間

11/9^月～22^日 14日間

期間中は、24時間交通規制を行う予定です。

場所

広小路・その周辺エリア

令和7年6月に策定した「今治市中心市街地グランドデザイン」は、まちなかに人がいる風景を取り戻すことを目指し、市民の皆さんや関係者との対話を重ねながら作り上げた、まちづくりの羅針盤です。

グランドデザインの実現に向けた第一歩として、11月9日から、港と市役所を結ぶシンボルストリート「広小路」で社会実験を行います。実験期間中は、車両の通行を両側の側道での一方通行に変更し、広小路中央部は人々が心地よく過ごせる「みち広場」として活用します。

なお、「広小路中央部分を歩行者空間(みち広場)として活用する」という考え方は、これまで検討してきた将来像の一つであり、最終的な整備内容として決定したものではありません。実際に広小路の利用方法を一時的に変え、その効果や課題を市民の皆さんと一緒に確かめるための社会実験です。

実験では、交通への影響や新しい空間活用の可能性を確かめるとともに、市民の皆さんから広く意見をうかがいます。そこで得られたデータや意見をもとに議論を深め、中心市街地のこれからのあり方を市民みんなで考えていきます。

～今治市中心市街地グランドデザインとは～

中心市街地を対象に、将来のまちの姿と取り組みの方向性を示したまちづくり計画です。令和4年度から、市民やまちづくりの関係者との意見交換、現地調査などを重ね、令和7年に策定しました。



詳しくはこちら

次のページから社会実験の全体像を紹介します。

ランドデザイン 完成までのあゆみ

対話と調査を重ね、
まちの将来像を
描いてきました。



まちづくりに関わる
市民や事業者への
ヒアリング、中学生
ワークショップなど
を通じて、検討の土
台となる「中心市街
地まちづくり構想」
を作成



学識経験者、地域団
体、行政機関などによ
る「中心市街地創生デ
ザイン会議」を設立。
公共空間の使い方や
公共施設のあり方な
ど、具体的な将来像の
検討がスタート

2022年4月▶2023年3月(令和4年度)

2023年4月▶2024年3月(令和5年度)

01

なぜ、広小路で社会実験をするのか

「通り抜ける」だけでなく、
人が集い、にぎわいが生まれる
広小路の可能性を探ります

広小路は、港や市役所、駅、商店街など、市内中心部の各拠点をつなぐ「重要な都市軸」です。かつては多くの人が行き交い、“まち”のにぎわいを支えてきました。

一方、現在は車で通り抜けることが中心の空間となっています。

今回の社会実験では、広小路の利用方法を一時的に変え、道路の中央を歩行者が過ごせる空間(みち広場)として活用し、交通への影響や、人が集い、にぎわいが生まれる可能性を確かめます。

その結果や市民の皆さんの声を踏まえて、広小路を含む中心市街地のこれからのあり方を検討していきます。

広小路の断面図(イメージ)

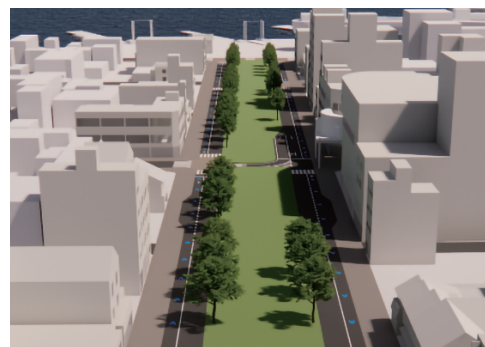
現 状



社会実験中



将来(案)



広小路の道路空間の将来イメージ(案)

人が集い、にぎわいが生まれる広小路の将来イメージ(案)

※この図は、広小路の活用によって生まれる可能性を示したイメージです。整備内容として決定したものではありません。



「中心市街地まちづくり市民会議」を開催し、これまで積み重ねてきた成果を多くの市民と共有。参加者から多様な意見をうかがい、ランドデザインへ反映



4年の検討期間を経て、ランドデザインが完成。「まちづくり市民会議2025」では、ランドデザインの内容を共有し、立場や世代を超えて、まちなかの活用に向けたアイデアを交換

2024年4月▶2025年3月(令和6年度)

2025年4月▶2026年3月(令和7年度)

02

社会実験で、なにを試すのか

人が日常的に集う「みち広場」を実現するための 「4つのアプローチ」を試します

ランドデザインに描かれた広小路の未来の姿は、緑豊かな「憩いの場所」です。クスノキの木陰や芝生が広がる空間で、子どもと散歩したり、休日にはイベントを楽しんだり——。人が日常的に集い、心地よく過ごせる場所をイメージしています。

その姿を実現するためには、さまざまな取り組みを組み合わせながら、広小路を日常的に訪れたいくなる、使いたくなる場所へと育てていくことが重要です。

今回の社会実験では、その第一歩として、4つのアプローチから広小路の新たな活用方法を試します。

4つのアプローチ

① 交通検証に基づく道路空間再配分

車のスムーズな通行に配慮しながら、ゆったりと安心して歩けるスペースを創り出します。

② 滞留・活動を生む空間デザイン

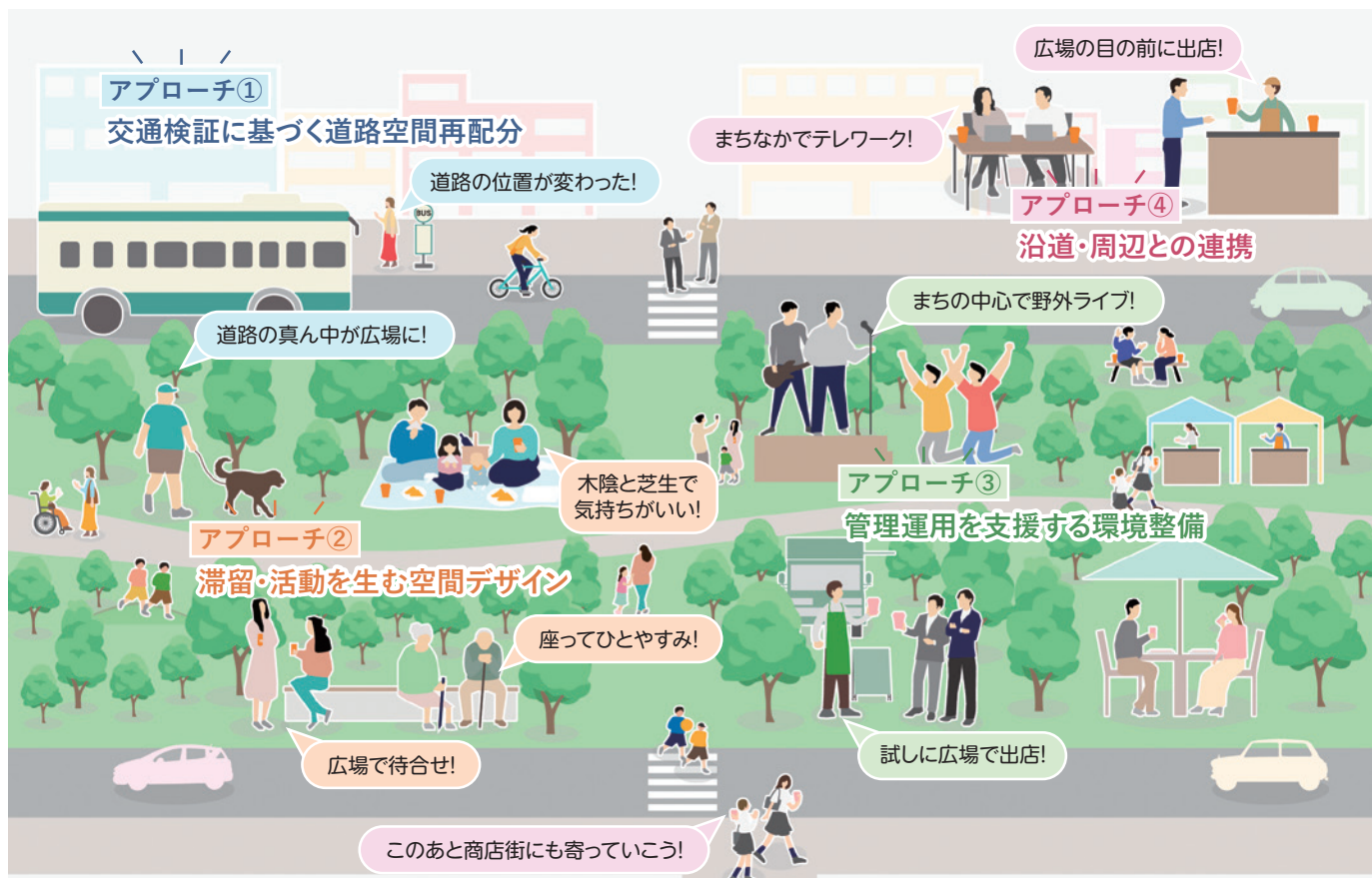
子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に立ち寄り、心地よくのんびり過ごせる広場を整備します。

③ 管理運用を支援する環境整備

市民や地元のお店が、カフェやイベント、ワークショップなどで自由に広場を使える仕組みを検討します。

④ 沿道・周辺との連携

広小路のにぎわいがきっかけとなって、商店街や今治港周辺へも足をのばしたくなる工夫を行います。



交通への影響と、 新しい空間活用の可能性を検証します

1. 交通への影響の検証

人も車も安全でスムーズな通行ができるか検証します

期間中は、道路の中央部分を「歩行者空間(みち広場)」とし、両側の側道を「車道」として運用します。人も車も安全でスムーズに通行できるよう対策を講じたうえで、交通にどのような影響が生じるのかを調査します。

バスの運行、沿道への出入り、荷物の積み下ろしに加え、周辺道路の混雑や抜け道への影響なども丁寧に検証します。



2. 新しい空間活用の検証

「みち広場」を使いながら、活用の可能性を確かめます

道路中央部分に生まれる歩行者空間は、人が集える「みち広場」として活用します。実際に「みち広場」を使ったさまざまな取り組みを試しながら、人の集まり具合や過ごし方、にぎわいや交流が生まれる可能性、まちなか全体への波及効果などを検証します。



気軽に立ち寄れる
憩いの場づくり

週末を中心に
多彩な催し物の実施

沿道店舗や商店街、
港での取組と連携



Q1.なぜ、広小路を再整備するの？

A. まちなかににぎわいを広げるためです。

まちなかでは、せとうちみたとマルシェのような新しいにぎわいが生まれています。一方で、それぞれの場所が十分に繋がっていないという課題もあります。港や市役所、駅、商店街などを結ぶ広小路が人の流れをつなぐことで、「まち」全体へにぎわいが広がることを期待して、再整備を検討しています。

Q2.期間中、車はどう通るの？

A. 車は両側の側道を一方通行で通ります。

実験期間中は、車は道路の中央部分を通れなくなり、両側の側道を一方通行で通行します。転回スペースや荷さばきスペースを設けるなど、できるだけ通行しやすいよう配慮します。

詳しい交通規制の内容は、広報いまばり11月号でお知らせします。

Q3.実験後は、このまま整備が進むの？

A. 検証結果を踏まえて方針を検討します。

今回の社会実験では、交通や市民生活への影響、新たな空間活用の可能性を検証します。実験で得られたデータや市民アンケートのご意見をもとに、その結果を市民の皆さんと共有しながら、現在の案にこだわらず、今後の整備方針を検討していきます。

Q4.実験中に重大な問題が発生した場合は？

A. 安全を最優先に、中止を含めて判断します。

想定していなかった課題や大きな影響が出た場合は、実験期間中であっても速やかに改善を図ります。また、重大な事故につながるおそれがある場合は、安全を最優先に、実験の中止を含めて直ちに判断します。



ミナトマチヨル
MINA to MACHIYORU

今治をもっと楽しいまちに！ アイデアを実践する「ミナトマチヨル」とは？

「ミナトマチヨル」は、今治のまちを盛り上げたいという思いのもと、それぞれが得意分野を生かして実践的に活動する市民有志の集まりです。

市が主催する広小路の社会実験では、「ミナトマチヨル ～広小路ら編～」と題し、実際の空間を活用した活動に取り組みます。広小路の中央に生まれる「みち広場」で将来どのような過ごし方や使い方ができるか、さまざまなアイデアを形にして可能性を探っていきます。



Instagram

社会実験に関する具体的な交通規制情報や、実施されるイベント・企画などは、「広報いまばり11月号」で詳しくお知らせします。



ホームページ